

放送日 令和元年6月3日(月)

担当者 税務課長 林 正明

おはようございます。税務課長の林です。

今日は、市税の一部を担いつつも、日頃あまり触れられることの少ない、たばこ税についてお話しします。

たばこに税金がかかっていることは、みなさんご存知かと思いますが、具体的にどれぐらい?となると、よく分からないのではないのでしょうか。

たばこ税には次のような区分があります。国税のたばこ税とたばこ特別税、都道府県たばこ税、市町村たばこ税の4種類。このうち、市町村たばこ税が市町村の収入になるものです。

では、具体的な税額について、一般的な1箱20本入りで、店頭価格が480円の例で説明しましょう。

この480円のうち、たばこ税の合計は264円88銭で、店頭価格に対し約55%の割合を占めます。また、市町村たばこ税については、このうち113円84銭で、こちらは23.7%の割合となります。

これを1本あたりに換算すると、1本の店頭価格は24円で、たばこ税は13円24銭、そのうち市町村たばこ税は5円69銭ということになります。

本市における本年度歳入予算では、市税の歳入予算額77億4千万円のうち、たばこ税は約5%を占める3億9千万円であり、構成割合は大きくないものの、貴重な財源となっています。

私は昨年たばこを止めてしまいましたので、残念ながら市税収入には貢献できず、税務課長として、それはいかながなものかと言われてしまいそうですが、購入される方にとっては市内のお店での購入をお願いします。市内での購入分が、市税収入に繋がりますので。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 令和元年6月4日(火)

担当者 危機管理課長 荒川 亨

おはようございます。総務部危機管理課長の荒川です。

さて、市外の施設となりますが、皆さんは札幌市の大通公園を西の端まで散策したことはあるでしょうか。

そこには今では資料館として使われている、かつての札幌高等裁判所があり、裁判所としての名残で、建物の壁には天秤のレリーフが配置されています。

天秤にかけると言う言葉にはマイナスのイメージがありますが、天秤はそこに乗せた物の正しい重さを量るための道具ではなく、2つの重さを比較するための道具です。

裁判でも私たちの日常生活や日頃の業務においても、絶対的に正しいものを選び出すのではなく、より正しいもの、よりベターな選択を求められることが少なくありません。最終的により良い結果を残すためには、初めから2つの選択肢だけを用意して比較するのではなく、出来るだけ多くの選択肢を用意し、比較、検討していくことが必要です。

この選択肢は、自分だけの発想で数多く用意してみても、実際には頭のどこかで初めから否定的なフラグを立てていることが多く、一見多くの選択肢があるようでも、結果的には2、3件の中から選ぶことになりがちです。

自分自身でも幅広く多種多様な情報を収集することはもちろんですが、立場の違った多くの方々の意見に耳を傾けてみることで様々な視点から見た多くの選択肢を用意することができます。悩んだ時には周囲を巻き込み、より良い結果を選び出す事ができるよう、有効な選択肢を増やしていくことを心掛けたいものです。

さて、先程お話しした資料館の近くには、たくさんの日本酒の選択肢を備えた、安くて美味しくて盛りの多いお蕎麦屋さんがあります。7月13日からの北の酒まつりに向けた予行演習を兼ねて、近くを立ち寄られた際には探してみてもは如何でしょうか。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 令和元年6月5日（水）
担当者 危機管理課参事 緑川 節夫

おはようございます。危機管理課参事の緑川です。

本日は、職員としての防災意識の持ち方についてお話しします。

一般に、災害被害の軽減は、「自助、共助、公助」の効率的な組み合わせで実現されるといわれます。

災害時の地域住民にとっては、自助を中心に共助を求めながら公助でこれを補うことが基本となります。その比率は自助：共助：公助＝7：2：1とされています。

災害対策の基本は「自助」ですが、どのような事態においても「自分の命は自分で守る。」という備えが必要です。「自助」においては、私たち一人ひとりが災害への備えとして家族同士の連絡手段をあらかじめ定めておき、水、食糧、救急品等を用意し、避難路や避難場所をあらかじめ確認しておくことが大切です。災害時に命を失ったり、大けがをしてしまったら、家族は勿論、市民を助けることもできません。従って私たち市職員は、日頃から防災意識を高く持ち、物心両面にわたる備えを行って、「救助される人」ではなく、「救助する人」を目指すべきであると考えます。

次に「共助」についてです。発災時には、地域で協力して被害を最小限に抑えたり、被災した人を救助する「共助」が効果的です。阪神大震災においては、家屋倒壊等により生き埋めになった人は6,500人を数え、1,377人が生存して救助されました。この生存者の80%が、地元住民の人々により救出されています。自衛隊に救出されたのは157人と、全体の11%に過ぎませんでした。

発災直後の救助はまわりにいる人にしかできません。このため、日頃から町内会等を通じ、協力して対策にあたるような態勢を率先してつくっておくことも重要であると思います。

実際に災害が起きてから危機に立ち向かうのではなく、職員の一人ひとりが当事者意識を持ち、常に地域の危機性を意識した行動をとることが極めて重要です。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

また、本日は毎週水曜日の一斉退庁日です。日頃から計画的に業務を行い、勤務時間終了後はできるだけ早めに退庁しましょう。

放送日 令和元年6月6日(木)
担当者 災害復興支援課長 伊達 千秋

おはようございます。災害復興支援課の伊達です。

昨年9月6日に発生した北海道胆振東部地震により北広島市も震度5弱を観測してから9ヶ月(274日)が経ちました。

今年の4月1日からは、危機管理体制の強化と災害復興支援への取り組みを進めるため、防災危機管理室を新設し、従前の危機管理課及び防衛担当参事に加え、災害復興支援課が新設されたところであります。

災害復興支援課では、災害救助法に基づく応急仮設住宅としてプレハブなどの建設型仮設住宅ではなく、民間の賃貸住宅を借り上げる借上型仮設住宅を提供しております。そこには、今も23世帯47名が入居しており、他に1世帯2名が道営住宅で避難生活をおくっております。引き続き、被災状況に応じた被災者生活再建支援制度や義援金の支給など、保健福祉部の協力を得ながら被災者の生活再建に向けて支援を行ってまいります。

また、最も被害が大きかった大曲並木地区の復旧については、余震等による倒壊などの二次災害の防止や被災者の負担軽減を図るため、市民環境部と共に被災家屋等の撤去制度を活用して順次解体作業を行っているところであります。

加えて、地区の住民が安心して住み続けることができる災害に強い安全なまちを作るため、国からの交付金を得て建設部と一緒に、被災宅地の耐震化に必要な調査及び実施設計を行っており、並行して関係住民との合意形成に向け協議を進めているところであります。

一日も早い復旧復興を実現するため、全市を挙げて今後も課題に取り組んでまいりたいと考えております。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 令和元年6月7日(金)
担当者 防衛担当参事 杉本 雅弘

おはようございます。防衛を担当しております参事の杉本です。本日は昨年に引き続き、私の業務についてお話させていただきます。主な業務は、防衛補助事業の事務手続き等に関する連絡調整業務です。

ご参考は何故、当市が防衛補助を受けることができるかと言いますと、市の三島方面に所在しております。陸上自衛隊北海道大演習場により生じる騒音等(障害)の緩和を図るため「防衛施設周辺的生活環境の整備に関する法律」に基づき、適用補助項目を受けるため防衛省へ補助申請等を行なっているからです。

補助金の事業採択には、国の会計制度上早くて2年程期間が必要です。補助率は他の国の補助金等と比較しても高率でありますので、当市の財源の確保等の観点から国の補助金を有効に活用するため、各種の事業計画を進めているところです。

なお、今年度の事業は、道路の輪厚三島線及びまちづくり構想策定支援事業ですが、補助率が7/10、9/10という高率な補助です。このため、他の自治体も当市と同様に防衛補助を活用しておりますので、事業を進める上で、他の国等の補助制度を比較検討されながら積極的に活用する方法を各部でご検討されたほうが宜しいかと思えます。

また、補助金とは別に昨年は、特定防衛施設周辺整備調整交付金を1.1億円、再編関連訓練移転等交付金を3.5千万円の交付を受けて、市内道路整備、防災備品及び学校施設等に活用しながら市民生活環境の整備をしております。

なお、他の自治体では基金化しながら活用をしております。

私は、これらの業務を円滑にすすめるために、補助金交付官庁の北海道防衛局と事業計画、事業執行及び会計検査等の連絡調整等行っておりますので、補助を検討される場合はお気軽にお越し下さい、待ちしております。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。親切な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 令和元年6月10日(月)
担当者 総務部派遣課長 花田 秀樹

おはようございます。総務部付課長の花田です。

私は、千歳市に事務所がある道央廃棄物処理組合へ派遣され2年目となります。北広島市からの派遣は、私のほか、3年目となる櫻井次長と、今年度から建築職の瀬田松主査が派遣されています。

当組合は、北広島市のほか、千歳市、南幌町、由仁町、長沼町、栗山町の2市4町で組織し、廃棄物を共同処理するための焼却施設を令和6年度からの施設稼働に向け、日々業務に取り組んでおります。

業務の進捗としましては、昨年度まで組合に派遣されておりました工藤高齢者支援課長の粘り強い用地交渉が実を結び、無事に焼却施設建設用地の取得を終え、今年度は施設建設工事の入札、発注を行うところであります。

ちょうど先週の金曜日に入札公告を告示したところであり、施設規模としましては、北広島市の庁舎建設の3倍に及ぶ事業規模であり、全国的にも注目されている案件となっています。

今後、入札までの間、発注事務に関するコンプライアンスを十分念頭に置き、慎重に審査を進めていかなければならないと考えています。

また、焼却施設の完成、稼働するまでの間には、本市のゴミ分別の方法を「燃やせるゴミ」と「燃やせないゴミ」などに変更しなければなりません。職員の皆さんにおいては、まずは身近な庁舎内における現状でのゴミ分別の徹底、リサイクルの推進に努めていただきたいと思います。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 令和元年6月11日(火)

担当者 市民課長 志村 敦

おはようございます。市民課長の志村 敦です。

ボールパークの誘致が決まり、北広島市はこれまでにない大きな事業に向かっておりますが、これもひとえに市民の皆様や、市長を始めとして多くの職員の皆さんの「北広島を一番にしたい」という熱い思いの表れではないかと感じるものであります。

本日、申し上げたいことは、皆さんも既にお持ちかとは思いますが、市職員それぞれが「今いる場所で、今の仕事の中で、北広島を一番のまちにしていこう」という気概を持って臨むことが大切ではないかということです。

私共の部署では、多くの皆さんからのご意見やお問合せを受け付けます。中には市役所では解決できないような案件もありますが、まずはお役所目線ではなく市民の皆さんの観点を教えていただくといった、拝聴する姿勢から全ては始まるものと考えます。どのような状況下にあっても「北広島を一番のまちにしたい」という思いは、市職員一人ひとりの器を大きくし、ご意見等を寄せられる皆さんをも包み込むことができる境涯となって対応していくことが可能となるものと思います。

市役所の多岐に亘る部署の皆さんそれぞれが、「北広島を一番のまちに」という思いを持って業務に臨んでいった結果、真に「住んでよかったまち北広島」になり、令和という新時代において輝かしいまちの歴史が築かれるものと確信するしだいであります。

「心こそ大切」です。まずは今後とも私自身が、このような情熱をいつまでも持ち続けて業務に臨んでいくことができるよう、日々心掛け、努めて参りたいと決意しております。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 令和元年6月12日(水)
担当者 西部出張所長 佐々木 正範

おはようございます。西部出張所長の佐々木正範です。

私は、1959年4月2日生まれで今年度、ついに定年退職となります。現役正職員の中では最年長となりますので、老婆心ながら約40年間の勤務を振り返り、少しでも参考になればと思います。大きなお世話だと言われそうですが、めげずに話しますので付き合ってください。

程度の差こそあれ誰でも一度や二度、仕事が辛いと思ったことがあるのではと思います。私も過去には「やらされる身にもなってみろ、もう無理、こんな仕事辞めてやる」と思ったことが正直あります。しかし、辞めずにどう乗り越えたかと言えば、頭の切り替えでした。どういうことかというと、人から言われたからではなく、あくまでも自分の意志でやることとしました。やらされていると思うと徐々に疲弊していきませんが、自ら決めることでやる気が湧き、ひたすら突き進めました。要は考え方を切り替えたのです。同じ内容でも「もう無理」と思えば無理となり、「自分は大丈夫だ」と思えば案外どうにかなるものです。

嘆いたり腐ったりしていても決して状況は改善されません。それどころか、マイナスの感情がマイナスの状況を招き、もっと悪くなったような気がします。逆に前向きでいると、思いのほか道が開けました。

自分の考え方一つで、苦しくもなれば楽にもなります。「この仕事は自分に向いていない」ではなく「自分のスキルを広げられる」と思うのか、「何で自分ばかり」ではなく「頼りにされている」と思うのか、「残業が多くて大変」ではなく「ローン返済が早くなる」と思うかの違いです。自分にいいように考えるだけで楽になり、誰にも迷惑を掛けません。即実践可能であり、他者を軽視する利己主義とは違い、健全でお勧めです。

挨拶には、相手を認めるという力があります。人は認められると喜びを感じ、元気になります。さあ、今日も1日、明るく笑顔の挨拶で、職場さらには市民に元気をもたらし、誰もが住みたいまちづくりを進めましょう。

放送日 令和元年6月13日(木)
担当者 大曲出張所長 高橋 正弘

おはようございます。大曲出張所の高橋です。

市民の皆様、いつも大変お世話になっております。

職員の皆様、毎日の職務ご苦労様です。

朝のスピーチもだんだんお話しすることが少なく、最後に・・・ 新人職員の皆様、おはようございます。速いものでもう3ヶ月、仕事にはだいぶん慣れてきましたか、入所したての頃は、早く結果を出そうと焦ったこともあるかと思います、しかし、一歩ずつ確実に努力していくことで、おのずと後から結果はついてくるものです。新人職員の今だからこそ、許される失敗もあるのです。今のうちに色々な経験を積んで将来に備えてください。私も入所したての頃は先輩方にたくさんのご迷惑をおかけしてきましたが、今もこうしてガンバッテおります。私が皆様方に教えることなどある訳がないのですが、昔、よ〜く市役所にくるおばあちゃんに言われたことを、今も常に気を付けていることが2つあり、1つ目が”窓口対応”皆様は、窓口をくばり窓口にお客様が来た時は小走りに窓口に向かい、元気に笑顔で挨拶していますか。笑顔で対応するとお客様も笑顔で相談してくれるものです。そして、帰り際、笑顔で”ありがとうございました”と言われると、また、次のお客様にも言われるよう努力したくなるものです。2つ目は、”来客者”皆様はお客様が廊下で何かを探すように、周りを見渡しているお客様を見たとき、声をかけてあげ相談内容を聞き取り担当部署に案内してあげていますか。お客様は年に数回しか来庁しないお客様です。お声をかけてあげ不安を取り除いてあげましょう。皆様には是非、退職するまで続けてほしい私からのお願いです。新人職員の皆様、まずは3年努力しガンバッテ、この試練を乗り越え職員としての経験値を上げ、ベテランの称号を手に入れてください。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 令和元年6月14日(金)
担当者 西の里出張所長 石黒 哲明

おはようございます。西の里出張所の石黒です。

今日は、昨年9月6日に発生した北海道胆振東部地震時の西の里地区の状況についてお話ししたいと思います。

午前3時7分の発生後、テレビで地震速報を確認しながら家を出ました。3時40分すぎに西の里会館に到着後、少しずつ職員が集まり、ブルーシート、毛布などを運び込み、避難所の受け入れ体制を整えました。

日が昇ったころには、自治会、町内会の関係者や消防団員、厚別警察署西の里派出所の巡查部長が避難所に立ち寄ってくれ、見回りや声掛けを行った結果、西の里地区では火事やけが人もないことを報告してくれました。

情報が混乱する中、こういった報告はとても貴重なものでした。

後日、自治会の方と防災について話していたところ、「自治会では、災害時の避難マニュアルも作っており、見回りもしたが、やはり、大きな混乱をなくすには隣近所と仲良くしておくことが大切になる。声を掛け合ったり、食料を分け合ったりしていたようだ」と話していたことが印象的でした。

関係機関が動き出す「公助」までには、どうしても時間がかかります。災害直後には、「自助」「共助」が大切であると言われていたことを思い出しました。

個人においては、水や非常食の備蓄、家族と有事の際の行動の取り決め、職場や避難所へ出向くときの持ち物を準備しておくことが大切になると思います。

とはいえ、やはり突発的な出来事では、混乱し、あわてがちです。日ごろから、手順を考えておくことが大切だと改めて思ったところです。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいadak 大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 令和元年6月17日(月)

担当者 環境課長 阿部 泰洋

おはようございます。市民環境部環境課長の阿部泰洋です。今日は、ヒグマの出没対応についてお話しさせていただきます。

市内においては、これまでも、道路を横切るヒグマの目撃情報や足跡、糞の発見などが年に数件程度ありましたが、今年度は、目撃情報などが例年より多い年となっています。

特に、今月10日に市内の富ヶ岡、共栄などで目撃されたヒグマは、その日のうちに、道立野幌森林公園内に移動したと思われ、野幌森林公園の周辺においては、昭和16年以来78年ぶりのヒグマの出没になるとのことです。

ヒグマは、早朝や夕方以降の時間帯に比較的活発になると言われており、目撃情報も、ほとんどが夕方から早朝にかけての夜間になりますが、ヒグマに関する通報があった場合には、市民の安全確保のため、関係機関や関連部署と連携をとりながら、できるだけ迅速に目撃現場を調査し、周辺住民への注意喚起やパトロールなどを行います。

これらの対応を迅速に行うために、注意喚起用の資材などを事前に用意したり、ヒグマの出没を想定した対応マニュアルを作成して準備していますが、ヒグマのような野生動物は、予想外の行動をとることもあることから、過去の実績などに基づき、マニュアルの見直しを行っていくとともに、その場の状況に応じた臨機応変な対応が必要になります。

今後も、ヒグマの目撃情報などがあった場合には、市民の安全を第一に考え、様々な状況を想定した対策・対応を行っていきたいと思いますので、関連部署におかれましては、引き続きご協力をお願いいたします。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 令和元年6月18日(火)

担当者 市民参加・住宅施策課長 近藤 将雄

おはようございます。市民参加・住宅施策課の近藤です。

市民参加・住宅施策課は、昨年度に新設され、市民参加や男女共同参画などに関する業務と、空き家対策などの住宅施策に関する業務を担当しております。

私が平成7年に当時の広島町に採用され、24年が経ちました。昨年度に課が新設されたことから分かるように、業務の中には空き家問題やLGBT、ワークライフバランスなど、20年前には、担当部署がなかった業務も多くあり、改めて、街の成長を感じ、街の変化に対する把握・対応の大切さを再認識し業務を行っています。

北広島市は、数年後にはボールパークが完成し、また大きく成長していきます。

今後は、この成長に伴う、街の変化、人の流れなどを把握・予測し、効果的な空き家対策や流動化などの取り組みを進めていきたいと考えています。

そこで大切になってくるのが情報の収集や状況の把握ですが、それらは、インターネットからや、市民の方との何気ない会話、また、私生活の中など様々なところから入手できます。

インターネットを活用した情報の収集は、大きな情報源として、日頃から活用しておりますが、特に若い職員のインターネットを活用した情報収集能力、発信能力の高さには、着いていけないことも多く、羨ましく思っています。

ぜひ、若い職員の方は、今後も様々なスキルを大切に、さらに磨き、街の成長に生かしてほしいと思います。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 令和元年6月19日(水)

担当者 福祉課長 奥山 衛

おはようございます。福祉課長の奥山です。

昨夜、新潟県において震度6強の地震が発生しました。

被害状況の全貌はまだ明らかになっておりませんが、新潟県、山形県などの被災した地域の方々には、余震や二次災害に十分気を付けられ、まずは身の安全を確保していただきたいと思います。この地震によって、1000人余りの人が避難所等へ避難しているとの報道がされています。

本日はこのような災害時に、単独では避難所などへ避難ができない障がいのある方や高齢者の方などについての市の取組についてお話しします。

市では、このような市民の方の避難支援体制を整備するため、平成28年5月に「避難行動要支援者避難支援プラン」を策定しました。これは、簡単に言いますと、災害が起こる前に災害時に支援が必要な市民の方を把握し、災害時に実際に避難を支援する地域住民の方、避難の仕方などを決めておくものです。もう既に職員の皆さんはご覧になっていることと思いますが、今一度、市ホームページに掲載してありますので、確認していただければと思います。

災害時、その災害の規模によっては、私たち市職員だけではマンパワーが不足し、十分な対応は困難なことから、現在、体制の整備にあたっては、自治会・町内会、自主防災組織など、様々な関係団体、組織のご協力を得て進めているところです。既に、自主的にこの取組を進められている地域も多数あります。職員の皆さんのお住まいの地域にも、きっとこのように災害時に避難するにあたって、支援を必要とする方は住んでいらっしゃると思います。災害時、私たち職員はいち早く市で定められた防災体制のもと、市民の安全確保のための様々な対応をしなければなりません。この要支援者への支援体制整備は事前にその内容を決めておくことが重要なこととなります。福祉課からは、地域の市民の皆さんに広く呼びかけを行ってこの作業を進めていきますが、職員の皆さんも是非、それぞれお住まいの地域において、地域住民の一人として体制整備へのご協力をお願いいたします。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 令和元年6月20日(木)
担当者 高齢者支援課長 工藤 秀之

おはようございます。高齢者支援課の工藤です。

今日は、10日後にきたひろしま30kmロードレース2019が開催ということでマラソンのお話をします。

道内では大小含めると200を超えるマラソン大会が開催されていますが、その中からランナーが大会を選ぶ基準としましては、走る距離、豪華な参加景品、大会後の観光など様々な理由があるかと思います。

一方、大会の満足度となると、特に多いのは「暖かい声援」です。知り合いからの声援はもちろんのこと、知らない方からの声援も、ランナーにとって、とても大きな力となり、また満足度向上にもつながると思います。

さて、きたひろしまロードレースは、エルフィンロードがメインコースであり、緑に囲まれた自然あふれる素晴らしいコースですが、応援の箇所が少ないコースでもあります。それでもこの大会の参加者からは、ボランティアの高校生の声援が素晴らしい、励みになったという声が多く聞かれます。私も実感しております。

そこでランナーの立場からのお願いですが、大会当日、業務でコース班や給水班などの担当となられている職員の方、また当日大会を見に来られる方、ぜひ高校生に負けないくらいの声援をお願いします。声援に対しては、ありがとうと元気に返してくれるランナーから無反応なランナーまで様々ですが、ほぼすべてのランナーは心の中ではうれしく思っており、それを力に変えていますので、ぜひ恥ずかしがらずに声援をかけてください。

ちなみに私がかけてうれしい声援は、「ナイスラン」です。こんな私は、今年1km6分のペースランナーとしてランナーとともに頑張ります。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張らしましょう。

放送日 令和元年6月21日(金)

担当者 高齢者・障がい者相談担当参事 柄澤 尚江

おはようございます。高齢者・障がい者相談担当参事の柄澤です。

高齢者や障がい者に関わる様々な相談に対し、制度や組織の縦割りではなく横断的な支援体制を構築していくための新たな部署ができて3年目になります。今年1月に福祉的支援の必要な世帯を早期に発見・支援することを目的に「庁内関係部署連携会議」を設置したところ、「家に大量のごみがたまっていて心配なお宅がある」「認知症かもしれない人がいる」などの情報が今まで以上にたくさん集まってくるようになったと感じます。職員の皆さんには、今後も心配な方がいた時には相談担当にご連絡をお願いいたします。

私は、平成18年から相談業務を担当させていただいていますが、人からはよく、「大変な仕事だよ。よく続けられるね。」等とねぎらいの言葉や私自身の心の健康を心配していただくこともあり、とてもありがたいことと思っています。自分が疲弊しないために私が意識していることのひとつは、「原因探しをしないこと」です。「解決志向アプローチ」というこの方法は、専門職でなくても誰でも実践できる方法です。私が相談担当に配属となった始めの頃は、相談が入るとなぜそんな問題が起きているのかと、その原因や理由を追及していましたが、原因がはっきりしたところで解決方法は見つからないということが続き、悩んでいた時に解決志向アプローチの研修を受ける機会がありました。例えば、虐待の事案で虐待をしているだろうと思われる人から事情を聞くときに、「あなたはなぜ虐待をしたのか」ではなく「あなたが今困っている問題が解決できたら、あなたはどんなふうになっていますか」というように聞いていくのが解決志向アプローチです。この例えだけではピンとこないかもしれませんが、私は解決志向の考え方に転換してから随分と自分の気持ちが楽になり、元気に仕事を続けることができています。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も一日元気に頑張りましょう

放送日 令和元年6月24日(月)

担当者 健康推進課長 遠藤 智

おはようございます。健康推進課長の遠藤です。

最近、テレビをつけると、目にしない日はないほど、健康情報番組が多いと思いませんか。番組は需要がないと成り立たないので、健康の維持や疾病の予防に興味がある人が多いということなのでしょう。ちなみに、市の事業に出前講座というものがあります。メニューの多さでは飛びぬけて「健康推進課」が多く、なんと23のメニューが用意されています。そのメニューの一つに「知っておきたいタバコと健康」というのがあります。実はこのメニュー、この5年間、一度も要望がありません。市民の関心がないわけはありません。なぜ、需要がないのでしょうか。タバコが健康に悪いことは、みんな分かっているからでしょう。分かっちゃいるけど止められない。そこがタバコの怖さです。雨の日も風の日も、冬のどんな寒い時でも、ぞろぞろと庁舎から這い出て喫煙所の向う光景を見るにつけ、ニコチンに支配されているとしか思えません。

昨年、望まない受動喫煙を防止するための健康増進法が成立しました。7月から段階的に施行されます。これまでの、喫煙者のマナー、施設管理者の責任といった段階から、法的な規制へとかわります。望まない受動喫煙を防止することは当然のなりゆきです。受動喫煙という文脈のなかでは、喫煙者はとかく加害者のごとく扱われます。しかしながら、健康推進課の立場からみると、喫煙者もニコチン依存症という脳の病気です。今後、受動喫煙対策が進み、たばこを吸える場所はどんどん狭められことは確かです。これを機に禁煙にチャレンジしてみてもどうでしょうか。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆様が、心に抱く大志を結集し、本日も一日元気に頑張りましょう。

放送日 令和元年6月25日(火)
担当者 保険年金課長 渡邊 広樹

おはようございます。保険年金課長の渡辺広樹です。

本日は、職場における人間関係についてお話しさせていただきたいと思います。私は昭和57年に入庁し今年で勤続37年となります。これまで、様々な部署で様々な経験しながら、多くの上司にお世話になってきました。当時の私は、近年入庁されている優秀な方々と違い、社会人としての自覚が足らず、多少問題のある職員でありまして、公私ともに上司に迷惑をかけ、それこそ、令和となった今で考えると「渡辺アウト」と言われるような行動も多々ありました。そのたび、職場の上司や同僚が救ってくれたからこそ、今もこの職場にいらることができていると思っています。今ではお世話になった方の多くは、退職され現在も勤務している上司では上野市長のみとなりました。昔の出来事を知りたい方は市長や昭和の時代から勤めている職員にお聞きすると良いでしょう。

私は、お世話になった方のような頼りになる上司を目指していますが、現状はどうでしょう。より良い信頼関係を築くためには相手のことを良く理解しなければならないと思いますが、現代は「相手が嫌がればハラスメント」と言われる時代、上司が部下の私生活について気にかけても簡単に聞けるものではなく、ましてや異性であれば、なおさらです。私自身、会話においても受け身となっている状況ではありますが、お世話になった上司のように悩みなどを気軽に相談してもらえよう関係性を高めていきたいと考えています。当たり前ですが、職場における人間関係が良ければ、職場には活気と明るさが生まれます。その明るい雰囲気は周囲にも影響を与え、市役所全体のイメージにも繋がります。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 令和元年6月26日(木)

担当者 こども発達支援センター長 濱田 真吾

おはようございます。こども発達支援センターの濱田です。こども発達支援センターは、栄町の北広島エルフィンビルに無事移転を終えまして、いよいよ明日27日から名称も子育て支援部内の組織名称へ統一し、こどもの「こ」を平仮名から漢字の「子」に変更しまして、新施設での業務開始となります。

また、広報北広島や市ホームページでも、既にお知らせしているところですが、29日には広く市民にお披露目するため、子ども発達支援センターのオープニングイベントを行ないます。内容につきましては、セレモニーや親子で楽しむことのできる体験型イベント及び施設の内覧会を予定しています。

なお、当日は都合がつかないという市の職員向けの内覧会を、こども発達支援センターのフロアに限りまして、本日勤務時間終了後に行ないます。

希望される方は、午後6時までに北広島エルフィンビルにお集まりください。なお、施設前の駐車場は台数が限られておりますので、駅西口の臨時駐車場をご利用下さい。

移転先は、民間施設の活用ではありますが、設計の段階からスタッフが参画し、こども発達支援センターの特長を生かし、特別なニーズのあるお子さんが安心して利用することができるように配慮された、明るく快適な施設となっております。

また事業の内容につきましても、障がいの重いお子さんへの訪問による対応など一部拡大をいたしますので、職員一同気持ちを新たに、市民及び関係機関の皆様の期待と信頼に応えられるよう専心努力してまいります。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 令和元年6月27日(木)
担当者 子ども家庭課長 高橋 陽子

おはようございます。子ども家庭課の高橋陽子です。

最近、子どもの居場所について話題なることが多く、昨年度のスピーチでは、子どもの遊びの重要性と居場所の関係について述べさせてもらいましたが、今日はもう一つの視点について話をさせてもらいたいと思います。先日参加した研修で、京都市で児童館131館と学童保育所9か所を運営する京都市児童館学童連盟の職員の方による事例報告がありました。それは、ある事例集を作成したというところから始まりました。児童館職員のささいな「気づき」で、子どもの虐待や保護者の悩みを、関係機関と連携して改善に導いた20のエピソードをまとめた事例集です。この中の一つです。京都市内の児童館に通う小学3年生の事例です。この子は、実は父親から虐待を受けていました。それが分かったきっかけは、児童館の職員の「気づき」でした。子どもの乱暴な行動や落ち着きのない様子から、親による虐待の疑いを抱いたその職員は、子どもと正面から向きあって信頼を得て、父に殴られてできたあざを見せてもらいました。そしてそれをきっかけに、児童相談所に通報し、その後児童館においても見守り支援を続けているという事例でした。本市にも3館の児童センターがあり、やはり福祉的アプローチの役割を潜在的に持っています。日々時間を共有し、直接的に関わる中で、職員が子どもの内面の変化に気づいたり、信頼関係ができることで、子どものほうから打ち明けたりすることがあります。昨今、全国各地で子どもが犠牲になる痛ましい事件が起こっていますが、身近な場所での気づきや声掛けが、リスクを未然に防ぐことにつながる場合もあると思います。保育園や幼稚園、学校もそうだと思いますが、児童センターもそういう現場の一つです。児童センターの多機能性を改めて振り返った研修でした。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 令和元年6月28日(金)
担当者 子育て担当参事 橋本 なつみ

おはようございます。地域子育て支援センターの橋本です。さて、みなさんご存知と思いますが、北広島市内の地域子育て支援センター3か所合同で実施している「子育て支援ランド」が今年20回目を迎えました。開始当初は、保育園内に子育て支援センターがあり、週に2回午前のみではありましたが、たくさんの親子が来園し、一緒に体操したり、工作したりして楽しんでいました。時には支援担当職員に、子育てに関する相談をする姿がありました。この頃は携帯電話やインターネットなどは、身近のものではなく、子育て情報を知る手段は本やテレビなどが主なもので、友達を求めて、「公園デビュー」という言葉もありました。

現在、子育て環境は大きく変わりました。市内だけではなく、近隣市内の子育て支援センターに遊びに行く方やスマホでイベントなどの情報を調べて参加する方も多くなりました。また、子育て情報も子育てに関する悩みもインターネットで調べる方がほとんどといっても過言ではありません。しかし、多くの情報に囲まれ、知識があっても、子どもにどのように接してよいかわからない親も増えているのです。

子どもの預かりや保育施設などの送迎を行う有償ボランティアになるための研修会に参加を申し込まれた子育て中のお母さんからこんな話がありました。最近起こった札幌市の悲しく痛ましい虐待死のニュースに触れ、「子育てしている同じ世代の自分たちが少しでも子どもを預かったり、相談にのったりすることで、地域の顔見知りが増えて、子どもの異変に気づくことができるのではないか」と。地域のつながりが希薄になってきている今、大人たちが地域の子どもの育ちに関心を持つことが必要だと思ふ事件でもありました。

子育ての不安やストレスを取り除き、喜びや生きがいを感じられるお手伝いをする子育て支援センターであり続けたいと考えています。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。